昭和52年 1977. Jan.29th 1月

やあ、皆さん、元気かい。

久しぶりにお目にかかった復刊第一号から二ケ月たとうとしている。正直なところ意外に反響が大きかったのに少々驚いているところだ。というわけで恥しがり屋のわたしも予定より早くこうしてまた登場した次第である。また復刊前から通算すると、このわたしも百号になるそうだ。考えてみれば、どれだけ多くのスカウトたちがわたしをつくってくれたことだろう。どれだけ多くのスカウトたちがこのわたしを手にしたことだろう。そしてどんな気持ちでこのわたしを読んだのだろうか。わたしを創ってくれた君たちの先輩たちがそんな気持ちを原稿にして送ってくれた。紙面の都合で全部載せられないのがとても残念だ。

ところで四団のスカウト諸君！いよいよ今年は四団も三十才になるんだね。カブやブラウニーたちには〝三十年前〟という時はよくわからないだろうが、それは君たちのお父さんやお母さんが中学生の頃だと思えば少しは想像がつくのではないだろうか。けれど、今四団にいるスカウトは君たちだ。三十年前、四団を創ったのは君たちの先輩であるけれど〝今〟この四団を創っているのは君たちひとりひとりだ。ひとりの人間のからだは一生のうち何度となく細胞が生まれかわっている。もしそうでなければそのひとはたちまち死んでしまう。けれど、たとえば手術をして胃を大部分とってしまっても、事故で手足を切断したとしてもその人は生き続けることができる。病気になってもなおることができる。それはいったいなぜだろうか。それはまだからだのどこかが生きているからだ。四団は今、もしかしたら、ある部分を病んでいるかもしれない。けれどどこかに生きているところがあるはずだ。四団を生かすものはいったい何だろう。それは……君たちひとりひとりの心の中の明るい光〝スマイル〟だ。(M・S)

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

Ⓓ

Ⓔ

Ⓕ

「スマイルを憶う」

渡辺　澄

はるかなる少年の日々を憶いながら、此の文章を書き始めています。当時の私は中学の三年生か高校一年生位だったでしょうか。毎日学校が終るとそのまま霊南坂に駆けつけ、自分で集めた原稿を自分で原紙を切り、インクで手を染めながらローラーを押し、そうして刷り上ったスマイルを（あの頃は塔の上に部屋がありました）木製のベンチに並べて乾かしたものでした。しかし、私の切ったガリ版は余り読みやすい物ではなかったと思います。何といっても、飯田さん、志水さんの作られたスマイルが最高の出来であったと記憶しています。

それにしても、あれだけ熱中し、スカウティングに、スマイルに打ちこんだ青春の日々は私にとって生涯でも最も充実した毎日であったと思います。隅から隅まで知りつくした霊南坂での生活、スカウティングは私にとって私自身であったのです。

「ライバルから一言」

木村恵子

なつかしい〃SMILE〃の文字を見たとたん、十数年前のスカウト時代があざやかによみがえってきました。もう知っていらっしゃる方も少なくなったでしょうが、一九五八年頃このBSのスマイルに対抗してGSでも〃DREAM〃という機関誌を発行していたことがあるのです。今はもうない入口近くのうす暗い教会の事務所の片隅で、まっ黒になりながらガリ板を切り、謄写版で印刷をし、毎号盛り沢山の記事を載せた〃DREAM〃が出来上った時のうれしさは今でもよく覚えています。

今回〃SMILE〃が三十周年を機会に新たにBS・GS合同の機関誌として生まれかわることを知って、この〃DREAM〃にたずさわった者としてはちょっとシャク（！）な気もしますけどスマイルの歴史にはとてもたちうちできません。願わくば、この新生〃SMILE〃が内から燃えるエネルギーによって末長く続きますようにお祈りしてやみません。

「思い出」

菊田方晴

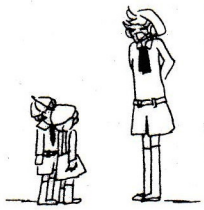
名古屋市内でもスカウトの姿を見掛けることが多々あり、ふと三十年前その一員であった自分を思い出します。あのツバの広い帽子、ネッカチーフ、胸や腕についているワッペン、水筒、ハンゴウ……。当時のメンバーは大方がよれよれの学生服やシャツにズボン、穴があいてそうなズック靴、今思えば、まともな服装ではなかったようです。でも、その胸や腕についている色々なワッペンは、みんな自分達の手で作ったもの、中学生であった志水、今田、小崎等の諸兄が中心になって、我々小学生組を叱り、いじめながら出来上ったものです。

ベアー、イーグルすばらしい出来ばえでした。黄と青のネッカチーフも四団自慢のもので、何かしら誇りを感じたほどです。

自分の手で物を作り、遊びを考え、グループで活動することの楽しさを教えてくれたのがスカウトでした。今ほど遊びの多くなかった三十年前、キャンプ、ハイキング、土曜日のミーティング、クリスマス会、どれ一つをとってみても本当に楽しいものば

かりでした。教会の庭でやったコルク野球。ビンの栓に使ったコルクをボールに、バットは木の枝か板切れ。他のことでは先に出られなかった私はこの野球では左腕を利した直球・カーブで誰にも打たれず？打てばホームラン？の大活躍が常であったことを記憶しています。くいしん坊の私の忘れられないのがクリスマスです。今井隊長とウィリアムズさんの好意であったであろうクリスマスケーキとアイスクリーム。この世のものとも思えない何ともおいしいものでした。そのせいか今でもケーキは大好物です。先日霞ケ関ビルでのOB会で今井隊長御夫妻にお会いした時には、当時のことが走馬灯のように頭の中を走り、数十年振りに志水兄の手を握った時には、思わず涙が出てしまいました。いたずら盛りの腕白連を引きつれ、遊んでくれた父や兄貴だもの！

スカウトの皆さん。四団に楽しい思い出を残して行けるよう、常にスマイルを忘れず元気に活動してください。　弥栄。



「雨の日の集会」

中村秀美

四団の皆さんこんにちは！霊南坂（毎週土曜日に通うことが出来なくなって十年たちました。その間あちこち地方を引越して歩き新しい土地へ行くと誰れも知った友達もいません。そんな淋しい時、スカウトの制服を着た子供達を町で見ると兄弟に出会った様な気がし、〃どこで集会やっているのだろう？四団のスカウト達と同じ様なことしているのかな？〃等とスカウトの事がとても気になり色々調べてリーダーに「一度集会を見学させて下さい。」と電話したある日「土曜日の午後〇〇公園で集会をもっておりますのでぜひお出掛け下さい。あの――、雨の日はお休みですのでお天気の日にどうぞ」ーへえー地方へ来ると面白い団がある、雨が降ると集会がない様です。余程、雨のきらいなスカウト達ばかり集まっているのかな等と考えながら北風の吹く寒い土曜日出掛けていってみるとスカウト達は元気よく狭い公園いっぱい駆け廻ってゲームをやっていました。やはりどこのスカウトも同じ。全身で集会を楽しんでいる姿を見ると、とてもうれしくまた懐しく感じ昔に帰った様な気分になりました。でもどうして雨の日は集会がないのだろう？気になって仕方がないのでリーダーに事情を聞いてみましたら、「屋根のある集会所がまだ借りられない」とのお話に私はビックリしてしまいました。どんなに寒くても暑くても集会は公園だったのです。

霊南坂教会のチャーチスカウトとして四団が誕生して三十年間一度も雨の為に集会が休みとなったことはなかったと思います。また、それが当然の様にスカウトハウスや集会所を土曜日の午後は、我がもの顔で使用させて載いていた自分を深く反省いたしました。私達はとても恵まれたスカウトだったのです。幸せすぎるとそれがあたりまえとなり感謝の気持ちを忘れがちですね。現在活躍中の四団のスカウトの皆さん!!

毎週毎週心ゆくまで教会で予定通り集会を持てる幸せに感謝しながら、スカウトハウスや集会所を常にきれいに心掛けてみてはいかがでしょうか。そして地方のスカウト達に負けない位、元気にスカウティングに励んで下さい。ではお元気で。　弥栄。

＝筆者紹介＝

○渡辺　澄　スマイルの編集をなさったおひとり。現在は岡山市にお住い。

○木村恵子　旧姓田中さん。四団元団委員長故田中正男氏のお嬢さんでガールスカウトＯＧである。

○菊田方晴　やはり四団初代スカウトのおひとり。現在は名古屋市にお住い。

○中村秀美　ガールスカウトＯＧ。現在は静岡県にお住い。

＝スマイル伝言板＝

○ＯＧ・ＯＢの皆様へ

スマイル発送名簿にのっていないため、スマイルが届かない方々がいらっしゃいます。そのような方を御存知の方がありましたら、編集委員まで御一報下さい。そして一人でも多くの方に〝スマイル〟の輪をひろげましょう！（編集委員一同）

（このコーナーは皆さんのものです。近況報告や住所変更の短信にどんどん利用してくれたまえ　Ｍ・Ｓ）

＝三十周年あれこれ＝

○記念品係より

三十周年記念式典まであと四ケ月となりましたが、記念品がほぼ決まりましたのでここにお知らせします。

非売品　スカーフ（図参照）。

販売品　ジャックナイフ（図参照）。

値段千五百円～二千円の予定。

尚、デザインは私達の先輩で現在ニューヨークでデザイナーをやっておられる大浜さんによるものですので、是非ご購入下さい。申込用紙はできるだけ早く配布いたします。（文責　高橋徹次）

BOY SCOUT 4
GIRL SCOUT 4
30th 1947-1977 TOKYO

スカーフはブルーの地にふちのもようが白の縁取で、ナイフはカバーの一方が字、他方が白の縁取のもようが入ります。カバーの地色はブルー。

○総務より　標語について

「ともに語り、ともに歩もう」

互いに語り合うこと、互いに歩むこと、今一番必要なことはこの二つです。

語り合う相手は、あなたと私、あなた方と私達、その他多くの人達です。特に私が語り合いたいのはＯＢやＯＧの方々です。語ることはたくさんありますが、私が、というよりも私達が知らなくてはいけないのは、四団の発団当時のスカウティングに対する理想と夢です。

膝をまじえて語り合ったら歩みましょう。理想や夢は語り合うだけでは一歩も近づけません。

だから、ともに歩みましょう。

（渡辺　博）

昭和五十二年一月二十九日発行
第百号（復刊第二号）
発行人　ボーイスカウト東京第四団
編集人　港区南青山七－十一－五
〒一〇七
日下部　英一
（カット＝白石佳子）

※　表紙カット＝Ⓐひきとけむすび　Ⓑもやいむすび　Ⓒ8の字むすび
Ⓓとめむすび　Ⓔほんむすび　Ⓕ仲仕むすび